
「クリティカル・シンキング」に関する科目の設置に向けて

| | | |
|-------|-------|--------|
| 研究代表者 | 竹内 綱史 | (経営学部) |
| 共同研究者 | 谷本 光男 | (文学部) |

1. 本 FD プロジェクトの目的

2015 年実施のカリキュラム改革に向けて、人文科学系科目運営委員会（人文部会）では、「クリティカル・シンキング」（以下、CT と略）に関する科目を設置する方向で調整が進んでいた。それをうけて、本プロジェクトでは以下の 4 点の課題に取り組んだ。①CT の内容についての研究、②それによる当該科目のコンセプトの明確化、③実際の授業構築の方向性を定めること、④今後の授業展開の可能性を探ること。

CT とは、大まかには、情報の内容を的確に読み取り・それについて批判的に吟味し・自らの主張を明確に述べる、という知的営みの中で用いられる能力や態度を指す。それは近年、哲学・心理学・教育学・医学・看護学といった学問領域のみならず、ビジネス界などからも注目されるようになってきている。2012 年の中教審答申が大学に育成を求めている「主体的に考える力」や、経産省の言う「社会人基礎力」にある「考え抜く力」も、CT のことを指していると考えられる。

こうした流れを受け CT 科目の展開が多く大学のなされるようになってきたが、本学では 2014 年度まで独立した科目として設置されていなかった。そこで本 FD プロジェクトは、今般のカリキュラム改革にあたり、他大学の事例も参照しながら上記の 4 つの課題に取り組むなかで、本学に適した CT 科目の構築を目指した。

そのために、近年大量に出版されている CT 関連の文献を精査し、シラバス等を通じて他大学の事例を参考にしながら、科目コンセプトを明確にし、具体的な授業内容も検討しつつ、2015 年度以降の科目展開の展望を考察した。

2. 本プロジェクトの実際の取り組み

本 FD プロジェクトでは、以上の目的を果たすために、主に、以下の 2 点に取り組んだ。(1) 文献等による CT 概念の内容整理、(2) 日本全国の大学の CT 関連授業に関する情報収集。

(1) 文献等による CT 概念の内容整理

近年、CT に対する関心が国際的に高まっており、日本においても盛んに論じられるようになってきている。それに伴い、多くの書籍等が出されているが、本 FD プロジェクトでは、以下の 4 点にわたって文献を収集した。1) 定評のある理論書、2) 学生にも勧めることができそうな入門書・概説書、3) 論理学や教育学等の関連領域の文献、4) 実際の授業の素材になりそうな領域の文献。

- 1) に関しては、京都大学文学研究科哲学教室編『PROSPECTUS』第 5 号（2002 年）
(<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/philosophy/phi-prospectus/>) が CT に関する特集を組んでおり、そのなかで国内外の CT に関する基本文献の紹介を行っているので、参考にした。
- 2) に関しては、アマゾン等のネット書店での評判等を参考に、数ある類書から新しいものを中心に集めた。

- 3) に関しては、CT の基礎となる論理学や大学教育における CT の位置づけ等を考察している教育学関連の文献を購入した。
- 4) に関しては、CT の分類（本報告書第 3 節 (3) 参照）のうち、本学での CT 科目は哲学系のなかで展開することになるので、それに関連して、哲学（例えば科学論など）や倫理学（政治哲学も含む）のなかで CT の素材になりそうなテーマの本を収集した。

以上の文献をもとに、CT 概念の内容整理と科目コンセプトの明確化を行ったが（その詳細は本報告書第 3 節参照）、実際に科目展開をしていく中で、それらを見直して修正していくための一つの基盤を作ることができたと思われる。

(2) 全国の大学の CT 関連授業の情報収集

学生バイトを雇い、以下の方針で、インターネットから全国の大学の CT 関連授業の情報を収集した。

- 1) 各大学がウェブ上に公開しているシラバスから、CT 系科目をピックアップし、その授業データ（当該科目シラバスの PDF データ）を収集する。
- 2) シラバス検索は「キーワード検索」とし、検索ワードは「クリティカル」「シンキング」「批判的思考」などとする。授業タイトルだけではなく、内容的に「CT 系科目」と見なし得るものは、すべてデータを保存する。
- 3) ウェブサイト「お受験ちゃんねる」の「大学偏差値ランキング 2015」で、国公立大学すべての学部から、偏差値 50 以上の学部を一つでも有している大学のシラバスを調査。ただし、国公立と私立は分けてリスト化する。

以上の作業によって、本報告書 5 頁以下のリストが得られた（全科目のシラバスの PDF データもあるが、それは割愛する）。本学での開講形態（CT そのものが科目コンセプトの中心・主に低年次生向けの教養教育科目・講義形式）と似た形態のものはあまり多くはなかったが、むしろ本学のような CT 科目の展開は先進的な取り組みとして積極的に評価されうるとの感触を得た。

3. CT とは

(1) CT への注目

欧米ではしばらく前から CT の重要性が知られるようになり、CT はもはや「読み書きに類した基本的能力」と広く見なされ、教育の基本に据えられている（アレク・フィッシャー『クリティカル・シンキング入門』（岩崎豪人他訳、ナカニシヤ出版、2005 年）など参照）。

しかし、日本で CT に注目が集まり、教育におけるその重要性が認識されるようになったのは比較的最近のことである。「ゆとり教育」失敗への反省や大学の大量化の進展のなかで、「学士力」「ジェネリックスキル」「社会人基礎力」といったキーワードで語られる大学教育の見直し議論の中心には常に、多かれ少なかれ、CT 的なものの強調があった（楠見孝・子安増生・道田泰司編『批判的思考力を育む 一学士力と社会人基礎力の基盤形成』（有斐閣、2011 年）など参照）。誰もが聞いたことがあるように、教育における「考える力」の重要性は頻りに語られてきたが、「考える力」の内実が CT として具体化されるようになってきたのである。それは現在、大学教育の核と見なされるようになってきたと言っても過言ではない（鈴木健・大井恭子・竹前文夫編『クリティ

カル・シンキングと教育 ―日本の教育を再構築する』（世界思想社、2006年）など参照）。

(2) CTの定義

では、CTとはそもそも何であるのか。CTの定義は様々であるが、最も広く使われているのは以下のロバート・エニスによる定義である。

「クリティカル・シンキングは、何を信じるべきか、すべきかについて決定することに集中する合理的、反省的思考である」（多くのCT関連本で引用されているが、ここではフィッシャー前掲書（6頁）から）。

この定義のポイントとなるのは、CTは、1) 単なる認知的側面のみならず意思決定に関わり、2) 合理的であること、3) 反省的であること、の三点である。

- 1) CTは意思決定に関わる。つまりCTは単なる知識ではないし、勉強法や学問的な方法論にすぎないわけでもない。むしろ、私たちが人生のあらゆる局面で直面する意思決定に関する、技術と態度を指す。それは受動的な情報処理のみならず、能動的で創造的な活動の基礎となる。「クリティカル」ないし「批判的」という言葉で連想されがちな、否定的な価値評価を専らとする活動ではない。学際化の進む学問においても、複雑化する社会生活においても、適切な意思決定をするために、CTは不可欠である。
- 2) CTが合理的であるとは、筋道立った思考であるということである。何らかの結論（それが意思決定にもつながる）を導き出すための理由や根拠の正当性を重要視する。それによって多くの選択肢のなかから適切な選択を行うこと、あるいは、多くの異なった意見の人々を納得させてまとめることが、可能になる。合理的であるとは理性的であることであり、また、その合理性は伝達可能なものでもある。
- 3) CTが反省的であるとは、それが思考について思考する（メタ思考）ということである。何らかの結論に至る思考の筋道を吟味し、その正当性を明らかにしていくこと。自らの思考についても、他人の思考についても、その思考そのものについて吟味する姿勢こそが、よりよい思考、より良い結論、より良い意思決定に向けて、重要なのである。

(3) CTの分類

現在CTは様々な分野で必要とされており、多くの書籍等が次々と出されている。それぞれの本などでCTとして謳われていることも多様性を持っているが、大きく分けると、CTは以下のように分類できる（道田泰司『最強のクリティカルシンキング・マップ ―あなたに合った考え方を見つけよう』（日本経済新聞出版社、2012年）参照）。

- 1) ビジネス系CT： ビジネスにおける諸問題を解決するための方法論。全体を網羅的に見渡すことの重要性等が強調される。
- 2) 論理学系CT： 論理学の諸規則を（陰に陽に）用いて筋道の通った思考を目ざすもの。的確に議論を理解し、議論を評価・構成することが強調される。
- 3) 心理学系CT： 人間の情報処理システムの特徴をふまえ、陥りやすい思考の誤りを回避しようとするもの。自らが用いている認知枠組みを相対化することが強調される。

- 4) 哲学系 CT： 常識を疑うなどして根本から思考を組み立て直すことで、視野を広げて物事の理解を深めることを目指す。上記3つの「修理型」CTに対して「改築型」CTとも言われる（伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』（ちくま新書、2005年）11頁以下参照）。

4. 科目コンセプト

以上をふまえて、本学で展開するCT科目は、CTの最も根本に位置すると考えられる哲学系CTと論理学系CTを中心に据えることにした。CTはその性質上、それを主題にしていない科目でも教授する（している）ことにもなるが、それを主題とした科目である以上、最も基本的な点から扱うべきであると思われる。

そこで、2015年度から開講の教養科目「クリティカル・シンキング」の科目コンセプトは、以下の通りとなった。

本科目の目的は、クリティカル・シンキングの技術（考えや議論を解釈・分析・評価する能力）を身につけることである。その技術は他のあらゆる科目で間接的に教授されていることであるが、本科目ではそれを直接的かつ明確に教授することで、その技術を発達させることを目指す。

なお、新規開設科目ということもあり、2015年度は受講生数が読めないのも、いずれにしろ学生に練習問題を課すなどをするにはなるが、授業の進め方は臨機応変に対応することになるだろう。担当教員はフィッシャー前掲書の訳者でもある岩崎豪人先生にお願いすることになった。

5. 今後の課題

冒頭にも述べたように、本FDプロジェクトは、2015年度のCT科目開設をにらんで、①CTの内容についての研究、②それによる当該科目のコンセプトの明確化、③実際の授業構築の方向性を定めること、④今後の授業展開の可能性を探ること、を目的としていた。

この目的のうち①と②に関してはある程度達成できたが、③と④についてはあまり深めることができていない。今後、実際に科目を運用していくなかで出てくるであろう問題点も受け止めつつ、より良いCT科目へと向上する努力を続けていきたい。また、CTの「専門家」と言える人は数少ないので（岩崎先生はその数少ない一人であるが）、授業担当者をどう確保するかも一つの課題として残るだろう。

【参考資料】

全国大学クリティカル・シンキング関係科目一覧

* 「備考」欄の◎は本学で開講するCT科目とほぼ同じ開講形態・内容の科目。○はそれに近い科目。無印は開講形態や内容が全く異なる科目。

【国公立大】

| 大学名 | 開講部局名 | 科目名 | 備考 |
|----------|---------------------|----------------------|----|
| 愛知教育大学 | | S 現代社会学 II | |
| 同 | | S 国文学演習 E I | |
| 同 | 共通 | Si メディア表現法 | |
| 愛媛大学 | 共通教育 | 日本語リテラシー入門 | |
| 茨城県立医療大学 | | 在宅・老年作業療法学特論 | |
| 同 | 基礎科目 | 社会学 | |
| 茨城大学 | 人文学部 | 異文化理解とコミュニケーション | |
| 同 | 同 | 国際交流実践論 | |
| 同 | 同 | 人間と心 | |
| 同 | 同 | 総合英語（学術） | |
| 同 | 理工学研究科 | 国際コミュニケーション特論 | |
| 岩手大学 | | 初年次自由ゼミナール | |
| 同 | 全学共通教育科目 | 基礎ゼミナール | |
| 宮城大学 | 看護学科 | 総合実習 | |
| 金沢大学 | 共通教育科目 | 日本語 B | |
| 九州工業大学 | 工学部 | 哲学 I（クリティカル・シンキング入門） | ◎ |
| 同 | 情報工学部 | バイオ技術者倫理 | |
| 同 | 同 | 技術者概論 | |
| 同 | 同 | 社会学 B | |
| 熊本大学 | | E ラーニングコンサルティング論 | |
| 同 | コミュニケーション情報学 コース | コミュニケーション情報学演習 | |
| 群馬大学 | 教養教育科目 | 学びのリテラシー（1） | |
| 香川大学 | 大学入門ゼミ | 思考法のワークショップ | |
| 高知工科大学 | 共通科目 | 倫理学 | |
| 同 | 共通教育 | ゲーム理論入門 | |
| 同 | 同 | 情報と倫理 | |
| 同 | 同 | 哲学 | |
| 高知大学 | | ゼミナール IV | |
| 同 | | 国際社会総合ゼミナール | |
| 同 | | 卒業論文演習 II | |
| 同 | 教養科目自然分野 | みのまわりの科学 | |
| 同 | 教養科目人文分野 | 風景と空間の科学 | |
| 佐賀大学 | 全学教育機構 | 大学入門科目 | |

| | | | |
|------------|-----------------|-----------------------|---|
| 埼玉大学 | 工学部 | プレゼンテーション技術 | |
| 山形県立米沢栄養大学 | | 基礎ゼミナール | |
| 上越教育大学 | | 中等家庭科指導法（授業論） | |
| 新潟県立大学 | 国際地域基礎科目 | 歴史学 | |
| 同 | 国際地域基礎科目外国語 | Critical Thinking | |
| 同 | 国際地域教職科目 | 英語科教育法発展研究 | |
| 同 | 国際地域展開科目共通基幹科目 | ポストコロニアル研究入門 | |
| 同 | 国際地域展開科目国際社会コース | 国際経営学演習 II（展開） | |
| 静岡大学 | 工学研究科 | 実践ロジカルシンキング | |
| 同 | 人文社会学部 | 心理学 | |
| 千葉大学 | 教養展開科目 | 思考とコミュニケーションのプラクティス | ○ |
| 大阪大学 | | 思考の世界 | ◎ |
| 長崎大学 | 教養教育科目 | コミュニケーション基礎講座 I | |
| 鳥取大学 | 地域学部 | 地域教育ゼミ I・発達科学 A・(心理学) | |
| 東京大学 | 教養学部 | 共通英語 (I) | |
| 福井大学 | | 大学教育入門セミナー | |
| 同 | 人間の科学系 | 批判的思考を伸ばす | ○ |
| 福岡女子大学 | | ファーストイヤー・ゼミ | |
| 同 | | 欧米言語文化演習 | |
| 同 | | 国語表現（音声・文法・表記） | |
| 同 | | 国際経営・マネジメント演習 I | |
| 同 | | 国際経営・マネジメント演習 II | |
| 同 | | 哲学概論 | |
| 同 | 学科基本（文化・歴史） | 哲学入門 | |
| 福島大学 | 共通 | (総) 大学で学ぶ | |
| 同 | 同 | 哲学 I | |
| 同 | 現代教養コース | 教養演習 II（夜） | |
| 同 | 人間発達文化学類 | 基礎演習 | |
| 同 | 人間発達文化研究科 | 生涯生活マネジメント特論 | |
| 兵庫教育大学 | 専門教育（美術系） | 美術史学演習 | |
| 北海道大学 | 一般教育演習 | クリティカル・シンキング | ○ |
| 鳴門教育大学 | | 教職キャリア開発演習 | |
| 和歌山大学 | 経済学部学科共通 | ラーニング・スキル演習 I | |
| 和歌山大学 | 同 | ラーニング・スキル演習 II | |

【私立大】

| | | | |
|----------|----------------|-----------------------------|--|
| 愛知学院大学 | グローバル英語学科 | 基礎ゼミ Q | |
| 愛知工業大学 | | 表現文化 | |
| 園田学園女子大学 | 児童教育学科専門科目総合科目 | 社会人基礎力演習（1） | |
| 学習院大学 | 日本文化学科 | 日本文化基礎演習 I G・III G（批判的に考える） | |

| | | | |
|---------|--------------------------|---------------------------|---|
| 関西学外語大学 | 英語キャリア学部 | アカデミック・リーディング | |
| 同 | 外国語学部 | 日本学 A | |
| 関西学院大学 | 文学部 | 人文演習 I 1 | |
| 同 | 同 | 総合 N | |
| 同 | 同 | 論理学 I | ◎ |
| 関西大学 | | 基礎演習 1 | |
| 久留米大学 | 文学／法学／経済／商 | 社会とキャリア | |
| 京都外国語大学 | キャリア英語科 | Reading & Writing III | |
| 同 | 英米語学科 | English Seminar VCCS | |
| 京都橘大学 | 学部一回生配当 | 論理的思考 | ○ |
| 京都産業大学 | 共通教育科目 | 日本語表現 1 | |
| 京都女子大学 | | 教育学研究 I | |
| 京都精華大学 | | プロダクトコミュニケーション 1D | |
| 同 | | 基礎デザイン 2D | |
| 近畿大学 | 共通教養科目 | 思考の技術 (critical thinking) | ◎ |
| 慶應義塾大学 | 社会学研究科 | 対人行動の研究 | |
| 同 | 法学部 | ディベートで養う英語表現力 CP | |
| 同 | 同 | 行財政の現状と課題 | |
| 工学院大学 | 第 1 部応用科学科生命科学 コース | ロジカルライティング II | |
| 甲南大学 | | 基礎リテラシー | |
| 同 | | 基礎演習 I | |
| 同 | | 論理学 (後) | |
| 桜美林大学 | | オーラル・コミュニケーション (きく) | |
| 芝浦工業大学 | 工学部土木工学科 2 年次 | ディベート演習 | |
| 松山大学 | | 上級英語 (受容) (21) | |
| 同 | | 論理学 II | |
| 上智大学 | 総合人間科学部看護学科 | 看護理論：人と環境の相互作用 | |
| 同 | 総合人間科学部看護学科 3 年次 (目白) | クリティカル・シンキング III：研究方法 | |
| 城西大学 | | ゼミナール I | |
| 同 | | ゼミナール II | |
| 神奈川大学 | | スポーツ哲学 | |
| 同 | | 情報化社会と人間 II | |
| 同 | 法学部 | 入門演習 | |
| 相山女学院大学 | 教養教育科目 | 入門演習 | |
| 清泉女子大学 | | 英語学特殊講義 I b | |
| 同 | | 社会学 a | |
| 青山学院大学 | | アドバンスト・イングリッシュ／英語-III | |
| 同 | | マーケティング・ベーシックス | |
| 同 | | 仕事力基礎論 | |
| 同 | | 日本語文章作成演習 | |
| 専修大学 | | ビジネスインテリジェンス | |
| 同 | 基礎科目 | 日本語文章表現 I | |
| 創価大学 | | 共通総合演習 1 | |
| 早稲田大学 | 教育学部 | 社会教育課題研究 I | |

| | | | |
|-------------|---------------------|----------------------------|---|
| 同 | 同 | 英語ディベート | |
| 同 | 同 | 社会教育課題研究 II | |
| 同 | 広域科目第一文学部 | 論理的思考法 | ○ |
| 相模女子大学 | 学芸学部メディア情報学科 | 文章表現 A | |
| 同 | 全学共通科目 | さがみ発想講座 A | |
| 多摩美術大学 | | デザインナレッジ (プロダクト) | |
| 大阪経済大学 | | 人間科学基礎演習 II | |
| 大阪工業大学 | | 哲学 I | |
| 大阪産業大学 | 人間環境学部文化コミュニケーション学科 | 平和学 | |
| 大阪大谷大学 | 教育学科 | 基礎ゼミ II | |
| 同 | 日文学科 | 映像文化 I | |
| 大東文化大学 | 外国語学部英語学科 | 応用セミナー (英独系) | |
| 同 | 文学部教育学科 | 基礎演習 2A | |
| 拓殖大学 | 文京キャンパス | アメリカ経済をリアルタイムで追う | |
| 中央大学 | | クリティカル・シンキング | ◎ |
| 同 | | 社会情報学基礎演習 (1) A | |
| 同 | | 総合教育科目演習 I (人文) | |
| 中部学院大学 | | 教育社会学 | |
| 東京家政大学 | | ゼミナール I | |
| 東京都市大学 | 社会メディア学科入学生 | クリティカルシンキング | ○ |
| 同 | 情報科学科 | 技術日本語表現技法 | |
| 東北芸術工科大学 | | 論理的思考入門 | ○ |
| 東洋英和女学院大学 | | キャリアデザインの為の実践的ワークショップ | |
| 同 | | 女性と現代社会 II | |
| 同 | | 女性学 | |
| 同 | | 人間科学演習 I | |
| 同志社大学 | | アカデミック・リテラシー-III-3 | |
| 武蔵野大学 | | 実用日本語 1 | |
| 武蔵野美術大学 | 建築学科 | 卒業制作 | |
| 文京学院大学 | 保健医療技術学部 | 看護展開論 | |
| 麻布大学 | | TOEIC リーディング I B | |
| 名城大学 | 理工学部建築学科 | 人文科学基礎 1 | |
| 名城大学 | 理工学部情報工学科 | 人文科学基礎 2 | |
| 明星大学 | 全学共通 | 思想への招待 | |
| 立教大学 | | 危機管理学演習 13 (危機管理とリーダーシップ論) | |
| 同 | | 研究リテラシー：計画と方法 | |
| 同 | | 福祉情報処理理論 | |
| 立命館アジア太平洋大学 | | メディア入門 JA | |
| 同 | | 新入生ワークショップ IJA | |
| 獨協大学 | | コミュニケーション論研究 | |